

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○多様な学習活動の充実
主な取組	青少年教育施設の運営充実		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内6か所の青少年教育施設(青少年の家)職員の資質向上及び円滑な運営を図るため、青少年教育施設職員研修会等を開催する。	県	青少年教育施設関係者の資質向上		
		青少年教育施設関係者研修会等の開催数		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課		【 098-866-2746 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		—			予算事業名		—	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
—	—	0	0		—	—	0	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画			
青少年教育施設職員研修会を4月、青少年教育施設定例連絡会を9月、11月、1月、2月に開催した。					青少年の家職員等を対象に青少年教育施設職員研修会を1回、青少年の家所長及び事務長等を対象に青少年教育施設定例連絡会を4回開催する。			
活動指標名	青少年教育施設関係者研修会等の開催数		R7年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		青少年教育施設職員研修会及び青少年教育施設定例連絡会を5回開催した。	
—	—	—	5回	5回	100.0%			
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果								
青少年教育施設職員研修会を1回、青少年教育施設定例連絡会を4回開催することで、目標値の5回を達成し、青少年教育施設職員の資質向上及び円滑な運営を図ることができた。								
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和7年度の取組改善案					反映状況			
—					—			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	連絡会の会議時間が限られているため、十分な情報交換、質疑応答の時間が取れない時があった。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	情報交換・質問事項について事前照会を各施設に行い、連絡会で共有することで円滑で充実した会議の運営を図る。

様式 1（主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○多様な学習活動の充実
主な取組	社会教育指導者研修会		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・ 県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内社会教育関係者が一堂に会し、地域づくりや地域活性化に向けた実践的な取り組みに対する成功事例を学び、社会教育活動と社会教育行政を推進する。	県	多様な学習活動を支える社会教育指導者の養成		
		研修会の開催数(累計)		
		7回	7回(14回)	7回(21回)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課		【 098-866-2746 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

社会教育研究大会

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

直接実施

381

379

令和7年度活動内容

沖縄県社会教育指導者研修会を令和7年6月6日に開催した。行政説明と市町村事例報告（那覇地区）、講演を行った。

予算事業名

社会教育研究大会

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

直接実施

385

令和8年度活動計画

沖縄県社会教育指導者研修会を令和8年6月4日に開催し、行政説明と市町村事例報告（中頭地区）、講演会を行う。

活動指標名

研修会の開催数（累計）

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

8回

7回

100.0%

順調

沖縄県社会教育指導者研修会を1回開催し、行政説明、那覇地区の市町村事例報告、講演を行った。加えて、6地区中4地区で計7回の研修会が開催され、全体で合計8回の研修会を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

研修会開催数は、目標7回に対し実績8回（県社会教育指導者研修会1回、地区研修7回）と目標値は達成。地区研修は一部地域で定着する一方、開催実績のない地域も存在し、地域差が課題である。特に、離島村からの参加が困難であった可能性も指摘されており、今後の改善検討が求められる。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

県内や他県の先進的事例や活動体制等について情報を共有する。県や市町村の社会教育委員や社会教育主事が連携し研究会の運営を担うことで社会教育を推進する資質・能力を高める。
県の研究大会において、県外の講師を招聘し、国や各都道府県の最新の動向について学ぶ機会を充実させる。分科会で市町村の事例報告を学び、交流することで、市町村どうしの横の連携を強化する。

令和7年度の沖縄県社会教育指導者研修会では、国立教育政策研究所職員を招聘し、「社会教育の可能性」と題する講演を開催した。県と市町村の社会教育委員・主事が連携して企画・運営にあたり、参加者アンケートからは社会教育の役割理解、地域づくりへの意欲向上、他県事例からの学びなど、高い評価が得られた。連携面では、事例報告や交流を行ったほか、地区開催研修会の案内を他地区へ情報提供し、参加を促進した。

- 5 -

様式 1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	県外講師招聘研修会は全体的に高い評価を得ており、特に内容面では参加者の満足度が非常に高かった。一方で、意見交換や学びを深める機会を増やすためグループ討議の時間を増やしてほしいと要望があった。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	次回の研修会では、講師と調整しグループ討議の時間を確保する。また、座席を地区単位にまとめるなど、参加者間の交流を促進する仕組みを構築する。
⑦ その他内部要因(改善余地の検証等)	離島や北部地域からの研修参加・交流が困難な状況であり、オンデマンド配信を行っているものの視聴が少ない点が課題である。	⑤ 情報発信等の強化・改善	研修視聴に必要なID・パスワード取得のハードルが高い、または忘れるケースが課題と推測される。パスワード発行、再発行にかかる案内を研修会で行う。また、SNSを活用し研修動画の広報を強化する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○社会教育施設の学習環境の充実
主な取組	社会教育施設の運営充実		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・幅広い世代の住民が交流し、その地域の身近な学習の場として多様なニーズに応えられるよう、公民館、図書館、青少年教育施設等の地域コミュニティの核となる社会教育施設の学習環境の充実に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内の公民館関係者が一堂に会し、地域づくりや地域活性化の実践事例等を学び、社会教育・生涯学習関係者の資質を高める。	県,市町村	公民館関係者の資質向上		
		公民館関係者研修会等の実施(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課	【 098-866-2746 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名		—			予算事業名		—		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
—	—				—	—			
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画				
沖縄県公民館関係者研修会を令和7年5月29日に開催した。 また、沖縄県公民館研究大会北部大会を令和7年11月21日に開催した。					沖縄県公民館関係者研修会を令和8年5月29日に開催する。 また、沖縄県公民館研究大会那覇大会を令和8年11月19日・20日に開催する。				

活動指標名		公民館関係者研修会等の実施(累計)		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	2回	2回	100.0%	順調		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
研修会等の開催数は、目標値2回に対し実績値2回（研修会1回、研究大会1回）で目標を達成した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○研修会において、県外の先進的事例や取組体制等について情報を共有する。県内各地区の公民館関係者が一堂に会し情報共有・意見交換することで、社会教育・生涯学習を推進する資質・能力を高める。 ○研究大会において、地域にゆかりのある講師を招聘し、地域活動活性化について学ぶ機会を充実させる。分科会で各地域の実践事例から学び、意見交換することで、地域間の連携を強化する。	○研修会では、全国公民館連合会発行「月間公民館」で記事を執筆中の講師を招聘し、全国各地の公民館における実践事例を共有した後、参加者による意見交換を行った。参加者アンケートにおいて9割以上の肯定的な意見を得られた。 ○研究大会では、北部地区出身の落語家を招聘した講演を実施し、分科会では各地区の特徴ある実践事例を共有し、研究討議において参加者同士で意見交換を行った。参加者アンケートにおいて、講演および各分科会についてそれぞれ9割以上の肯定的な意見が得られた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	研修会および研究大会の内容について、全体的に高い評価を得た。一方で、自身の地域の現状とかけ離れており、参考にするのが難しいという意見も一部あった。	③ 他地域等事例を参考とした改善	参加者が他地域の事例を参考にできるよう、より広範囲な実践事例の中から内容を選定し共有する。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	地区によって研修会・研究大会の参加者数に偏りがある。比較的参加者数が少ない地区・市町村への積極的な参加の呼びかけが必要である。	⑤ 情報発信等の強化・改善	各市町村教育委員会の公民館担当者から首長部局の自治公民館担当者へ周知が行き届くように周知方法を改善する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	○社会教育施設の学習環境の充実
主な取組	青少年教育施設の整備		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・幅広い世代の住民が交流し、その地域の身近な学習の場として多様なニーズに応えられるよう、公民館、図書館、青少年教育施設等の地域コミュニティの核となる社会教育施設の学習環境の充実に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内6カ所の青少年教育施設において危険箇所や施設の運営に影響を及ぼす箇所の修繕および老朽化した設備や備品等を更新する。	県,市町村	施設や設備等の整備による県立青少年の家の環境改善		
		環境改善を図る施設数(内訳)		
		6施設	6施設(継続6施設)	6施設(継続6施設)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課	【 098-866-2746 】	関連URL	—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)	
予算事業名	青少年教育施設営繕事業					予算事業名	青少年教育施設営繕事業
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額				
県単等	直接実施	42,616	17,771				
令和7年度活動内容						令和8年度活動計画	
繰り越しとなっていた石垣青少年の家（体育館）耐震改修工事設計を実施した。その他施設についても老朽化した箇所の修繕等を行った。						各施設の老朽化した箇所の修繕や備品の更新等を行う。	
予算事業名	公共施設マネジメント推進事業					予算事業名	公共施設マネジメント推進事業
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額				
県単等	直接実施		11,231				
令和7年度活動内容						令和8年度活動計画	
トイレの洋式化改修等老朽化した設備の更新を行った。宮古・石垣青少年の家大規模改修工事設計について、県土木建築部と協力して実施した。						老朽化した箇所の修繕や設備の更新等を行う。石垣青少年の家大規模改修工事について、県土木建築部と協力して実施する。	
活動指標名	環境改善を図る施設数（内訳）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		老朽化した箇所の修繕や設備、備品の更新等を行った。県土木建築部実施の宮古・石垣青少年の家大規模改修工事設計について、指定管理者の改修要望の集約や工事期間中の施設利用停止等の調整をした。
	—	—	6施設	6施設	100.0%		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
各青少年の家の老朽箇所の修繕および老朽化した設備や備品等の更新や宮古・石垣青少年の家大規模改修工事設計をすることで、県立青少年の家の環境改善が図られたことから進捗状況は順調とした。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○工程会議への参加、受注者への技術的指導等、専門的な知識が必要な部分は、県土木建築部と連携し、技術面の指導および協力を得ることで設計や工事を円滑に進める。 ○指定管理者へ工事に関する情報を提供し、問題が発生した場合は迅速かつ柔軟な対応をするなど、運営に支障をきたさないよう指定管理者、県関係者、工事受注業者と連携を密にする。 ○工事区域と利用者区域の明確な区画分けを行うなど安全対策を徹底する。また、施設ホームページ等を活用し利用者への周知に努めるとともに、利用申込時に丁寧な説明を心がける等利用者の理解を求める。	○工程会議等への参加、受注業者への技術的指導等、専門的な知識が必要な部分について、県土木建築部と連携し、設計を円滑に進めた。 ○指定管理者へ工事に関する情報を共有し、連携を密にすることで、運営に支障をきたさないよう柔軟な対応ができた。 ○工事区域と利用者用区域の明確な区画分けにより安全対策を徹底した。また、施設ホームページ等を活用し利用者への周知に努めた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	耐震改修工事や大規模改修工事は通常の修繕と異なり、建築、設備等複数の工事を同時に長期間実施するため工程管理や施工方法の検討等専門的な知識が必要となる。	① 執行体制の改善	工程会議への参加、受注者への技術的指導等、専門的な知識が必要な部分は、県土木建築部と連携し、技術面の指導および協力を引き続き得ることで設計や工事を円滑に進める。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	改修工事期間中は、完全に施設を閉鎖し利用者の受入を停止する期間が生じる。その場合、指定管理者の運営計画に支障をきたさないよう設計段階で事前に情報提供等を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	指定管理者へ工事に関する情報を提供し、施設利用停止期間の調整や問題が発生した場合に迅速かつ柔軟な対応をするなど、運営に支障をきたさないよう指定管理者、県関係者、工事受注業者と連携を密にする。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	施設利用者を受け入れながら改修工事を実施する場合は、利用者の安全確保が課題となる。また、工事の進捗によって、利用時間や活動プログラムが制限される可能性があり、利用者の理解を得る必要がある。	⑦ 取組の時期・対象の改善	工事区域と利用者区域の明確な区画分けを行うなど安全対策を徹底する。また、施設ホームページ等を活用し利用者への周知に努めるとともに、利用申込時に丁寧な説明を心がける等利用者の理解を求める。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	②地域の歴史、文化、芸術に触れる機会の充実
			施策の小項目名	○文化芸術に対する豊かな感性の醸成
主な取組	組踊等教育普及啓発事業		対応する成果指標	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合
施策の方向	・沖縄の文化芸術をはじめ、国内外の優れた文化芸術に触れる機会や表現する場等を提供し、子どもたちの文化芸術に対する興味や豊かな感性の醸成に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
組踊、琉球舞踊、琉球歌劇等の本県独自の無形文化財について、鑑賞機会の少ない県内の児童生徒を対象に公演およびワークショップを実施する。	県	組踊・沖縄伝統芸能の実演家によるワークショップの開催		
		組踊・沖縄伝統芸能ワークショップの実施回数(累計)		
		3回	3回(6回)	3回(9回)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】		関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/sosiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		組踊等沖縄伝統芸能普及啓発事業口			予算事業名		組踊等沖縄伝統芸能普及啓発事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	1,554	1,554		県単等	委託	1,553	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画			
沖縄本島全地域の小中学生を対象に伝統芸能のワークショップ（体験型学習）を3回実施し、郷土の文化財への理解と関心を深めさせた。					沖縄本島全地域の小中学生を対象に伝統芸能のワークショップ（体験型学習）を3回実施し、郷土の文化財への理解と関心を深めさせる。			

活動指標名	組踊・沖縄伝統芸能ワークショップの実施回数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	3回	3回	100.0%	順調	組踊・沖縄芝居ワークショップを計画通り3回実施した。内訳は組踊ワークショップが2校（中城小学校、大平特別支援学校）、沖縄芝居ワークショップが1校（与那原東小学校）である。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
当初の計画通り、年間で沖縄県内の小中学校3回公演の目標値を達成したため、順調である。小中学生それぞれに対応した体験型学習（ワークショップ）の効果がみられた。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和7年度の取組改善案				反映状況			
○児童生徒がより意欲的に取り組めるよう伝統芸能の解説と体験活動のバランスを重視したワークショップの実施に努める。具体的にはセリフの覚えやすさ、音楽体験などを積極的に行う。				○字幕を見せながら、セリフの覚え等の体験活動を実施した結果、児童も楽しみながら積極的にワークショップに取り組んでいた。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	児童生徒の興味関心を高め、理解度を高める工夫をする必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	セリフの覚えやすさや足を行う体験活動を通して児童生徒が意欲的に取り組めるよう工夫する。組踊や沖縄芝居の演目や作者、場面などについて、開催場所に関連するものがあれば、取り上げる。
⑧ その他外部要因 （改善余地の検証等）	沖縄芝居ワークショップの解説においては、組踊と沖縄芝居の違いも解説に加える必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	沖縄芝居ワークショップの解説においては、組踊と沖縄芝居との違いも解説に加える。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	②地域の歴史、文化、芸術に触れる機会の充実
			施策の小項目名	○文化芸術に対する豊かな感性の醸成
主な取組	文化振興事業費		対応する成果指標	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合
施策の方向	・沖縄の文化芸術をはじめ、国内外の優れた文化芸術に触れる機会や表現する場等を提供し、子どもたちの文化芸術に対する興味や豊かな感性の醸成に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
国内有数の芸術団体による舞台芸術鑑賞機会を県内へき地・離島の児童・生徒に提供する。校区や地域、広くは県内・県外に在住する芸術家や技能保持者等を学校に派遣する。	国,県	児童生徒に対する芸術鑑賞機会の提供		
		芸術鑑賞実施校数(累計)		
		70校	70校(140校)	70校(210校)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		沖縄県芸術鑑賞機会提供事業			予算事業名		沖縄県芸術鑑賞機会提供事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	409	418		県単等	委託	0	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画			
文化庁による鑑賞機会提供事業を実施した。また、県事業において、竹富町立上原小学校・白浜小学校・西表小中学校・船浦中学校を対象に実施した。					文化庁による鑑賞機会提供事業を実施予定。			

活動指標名		芸術鑑賞実施校数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B			
	—	—	33校	70校	47.1%	大幅遅れ	文化庁、県、市町村との共催により芸術鑑賞やワークショップ等を実施した。離島・へき地の児童生徒に芸術鑑賞機会提供のため、竹富町立上原小学校・白浜小学校・西表小中学校・船浦中学校で音楽鑑賞会を実施した。	

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
当該市町村教育委員会との連携を図り、本事業を周知した。令和7年度の実績値が前年度と比較すると減少しているが、文化庁主催の芸術鑑賞機会提供事業の基準において「過去2年間に採択された学校の優先順位は低くなる」ことから、令和5、6年度に採択された学校が不採択になっていることが実績値減少の一因と考えられる。令和7年度の沖縄県の小、中、高校、特別支援の学校から文化庁提供事業への応募校総数は78校であった。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の実績改善案	反映状況
○ 学校行事や教育課程との関連性もたせ、市町村教育委員会や学校との連携を強化する。 ○ 過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、学校が希望する日程やニーズに対応できるように支援する。	○ 芸術鑑賞機会提供事業に応募数の少ない市町村に対して、応募を呼びかけた。 ○ 離島・へき地において、芸術鑑賞機会提供事業の実施を希望する教育委員会、小中学校と連携し、日程調整をすすめた。芸術団体を派遣することで、小中学生が直接、演奏を聴いたり楽器に触れたりできるよう支援を行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	本県は、学力向上対策が最重要課題であるため、各学校とも授業時数の確保等が優先される傾向が見られることから、芸術鑑賞を実施するにあたり早期の日程調整が必要である。	② 連携の強化・改善	市町村教育委員会や県立学校長に対し、文化庁による「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」の周知に努め、学校行事や教育課程との関連性を持たせる。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	他県に比べても離島が多いことなどから、準備に要する時間や移動時間がかかるため開催回数が限られ、芸術文化に触れる機会がまだまだ足りない。	⑤ 情報発信等の強化・改善	過去、県内での実施実績のある芸術団体・個人に働きかけ、学校が希望する日程やニーズに対応できるように支援する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	②地域の歴史、文化、芸術に触れる機会の充実
			施策の小項目名	○文化芸術に対する豊かな感性の醸成
主な取組	青少年文化活動事業費		対応する成果指標	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合
施策の方向	・沖縄の文化芸術をはじめ、国内外の優れた文化芸術に触れる機会や表現する場等を提供し、子どもたちの文化芸術に対する興味や豊かな感性の醸成に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
本県の中学校や高校の総合文化祭への大会運営費補助や、高等学校文化連盟が行う派遣費助成への補助を行うことで、文化活動の発表の場を確保するとともに、各分野の技術向上と充実を図ることを目的とする。	県	中学校・高等学校生徒の大会派遣費補助		
		中学校・高等学校生徒の大会派遣費補助人数(累計)		
		2,000人	2,000人(4,000人)	2,000人(6,000人)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名		青少年文化活動事業費		予算事業名		青少年文化活動事業費	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度			
				主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	補助	15,709	15,293	県単等	補助	20,480	
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画			
県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟への補助金を通して、生徒の文化活動を支援した。				県中学校文化連盟・県高等学校文化連盟への補助金を通して、生徒の文化活動を支援する。また、総合開会式参観など、各文化連盟と調整し連携を図る。			

活動指標名	中学校・高等学校生徒の大会派遣費補助人数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	—	—	1,782人	2,000人	89.1%	概ね順調	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
県外大会や県内大会への離島生徒の大会派遣費の補助について継続的な支援を行った。令和7年度から沖縄県中学校総合文化祭が2日開催から1日開催となったため、県内大会への派遣補助人数は減っているが、引き続き、目標値に近づくよう、大会のプログラムなどにおいて創意工夫を凝らす。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和7年度の取組改善案				反映状況			
・ 令和6年度にクラウドファンディングで集まった支援金を、離島の部活動生の派遣費補助に充て、経済的負担を軽減する。 ・ 県内外大会への参加者の経済的負担を減らすため、各文化連盟と連携し、吹奏楽部門や郷土芸能部門等の楽器や小道具等の運搬費補助について支援を行えるよう協議する。				・ 県中学校総合文化祭総合開会式への参加において、楽器や小道具等の運搬の補助支援を県中学校文化連盟を介して行った。 ・ 県高等学校文化連盟と連携し、令和8年度から吹奏楽部門や郷土芸能部門等の楽器や小道具等の運搬費補助について支援を行えるよう協議を行った。 ・ 令和7年度にクラウドファンディングで集まった支援金を、離島の部活動生の派遣費補助に充て、経済的負担を軽減を図った。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑧ その他外部要因 （改善余地の検証等）	離島の部活生が県内外大会に参加する際、航空機や船等の利用が必須のため、保護者の経済的負担が大きい。	① 執行体制の改善	令和7年度にクラウドファンディングで集まった支援金を、離島の部活動生の派遣費補助に充て、経済的負担を軽減する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	②地域の歴史、文化、芸術に触れる機会の充実
			施策の小項目名	○「しまくとうば」の普及促進
主な取組	しまくとうば学習活動の実施（高等学校）		対応する成果指標	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合
施策の方向	・沖縄の文化の基層となる「しまくとうば」の普及促進に向けて、小・中学校や高等学校でのしまくとうば教材を活用した学習活動に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
高等学校におけるしまくとうば学習の推進および関連する情報の周知を図る。	県	高等学校におけるしまくとうば学習活動の推進及び関連する情報の周知		
		高等学校の教育活動におけるしまくとうばに関連する学習活動の実施状況の割合		
		68%	70%	71%
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課		【 098-866-2715 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名 -					予算事業名 -		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
—	—				—	—	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画		
教員に対し、沖縄県立総合教育センターで「しまくとうば実践指導講座」を実施し、しまくとうばの普及に協力できる教員の資質向上を図った。					昨年度同様、沖縄県立総合教育センターで「しまくとうば実践指導講座」を実施し、しまくとうばの普及に協力できる教員の資質向上を図る。		

活動指標名	高等学校の教育活動におけるしまくとうばに関連する学習活動の実施状況の割合		R7年度			進捗状況	活動概要
	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	79.5%	68%	100.0%	順調	国語（20%）、社会（23%）、音楽（57%）、家庭科（36%）の授業においてしまくとうばに関する様々な取組が行われた。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標を上回る79.5%の学校でしまくとうばに関する学習活動が実施され、生徒がしまくとうばを学ぶ機会が確保されており、進捗状況は順調である。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○しまくとうばを系統的に指導できる教員を育成するため、今年度も引き続きしまくとうば普及センター等と連携して「しまくとうば実践指導講座」を開催し、教員の資質向上を図る必要がある。 ○生徒自らが「しまくとうば」に関連した課題を設定して学習に取り組む探究的な学習や特別活動などを推奨し支援する。	しまくとうば普及センター等と連携して「しまくとうば実践指導講座」を実施し、しまくとうばに関する教員の資質向上を図った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	県内各地域において話される多様なしまくとうばを系統的に指導できる教職員が減少している。	② 連携の強化・改善	今年度も引き続きしまくとうば普及センター等と連携して「しまくとうば実践指導講座」を開催し、昨年度の受講者数(56名)を超える60名以上の受講を目指して周知に努め、教員の資質向上を図る。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	高等学校は広範囲な地域の生徒が在籍するため、特定の地域の「しまくとうば」を教えることは難しい。	⑧ その他	しまくとうば普及センター等と連携して生徒が「しまくとうば」の周知および「しまくとうば」に関連した課題について研究するような探究的な学習や特別活動などを推奨し支援する。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施 策	②地域の歴史、文化、芸術に触れる機会の充実
			施策の小項目名	○「しまくとうば」の普及促進
主な取組	しまくとうば学習活動の実施（小学校・中学校）		対応する成果指標	学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合
施策の方向	・沖縄の文化の基層となる「しまくとうば」の普及促進に向けて、小・中学校や高等学校でのしまくとうば教材を活用した学習活動に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
小・中学校の学校教育において、しまくとうばに関する講話会の開催や、授業等で活用するための地域人材派遣について、「しまくとうば普及センター」と連携協力する。	県	「しまくとうば読本」や「しまくとうばの日」など、しまくとうば学習活動に関連する情報の周知及び推進		
		学校の教育活動における、しまくとうばに関連する学習活動の実施状況の割合		
		小学校 84% 中学校 87%	小学校 87% 中学校 89%	小学校 90% 中学校 91%
担当部課【連絡先】	教育庁義務教育課	【 098-866-2741 】	関連URL	—

様式1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)									
(1) 取組の進捗状況									
(単位：千円)									
予算事業名					—				
主な財源		実施方法		R6年度 決算額	R7年度 決算見込額				
—		—							
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画				
「しまくとうば読本」を総合的な学習の時間や学校生活等での活用促進を図る。読本の活用状況について文化振興課と連携して把握する。					「しまくとうば読本」を総合的な学習の時間や学校生活等での活用促進を図る。読本の活用状況について文化振興課と連携して把握する。				

活動指標名	学校の教育活動における、しまくとうばに関連する学習活動の実施状況の割合		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	90%	小学校 84%	100.0%	順調	各学校でのしまくとうばに関する授業において、「しまくとうば読本」を活用するよう促した。 「しまくとうばの日」を周知するとともに、各学校での実践事例等を紹介した。
活動指標名	学校の教育活動における、しまくとうばに関連する学習活動の実施状況の割合		R7年度				
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	80.5%	中学校 87%	92.5%		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
学習発表会、文化祭での取組、給食時間の放送にしまくとうばを活用した事例等、しまくとうばに親しむ環境づくりを行っていることから順調とした。目標達成に至らなかった要因として、地域ごとのイントネーションや言葉の違いがあるための正しい指導の難しさ、教えるための準備や地域人材との調整等の時間確保の難しさ等が挙げられる。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○しまくとうば読本の活用促進と活用状況の事例提供 ○9月18日のしまくとうばの日について小中学校への周知と取組の促進を依頼	・学校の実態に応じ、学校行事やクラブ活動等で「しまくとうば」を取り入れられるよう具体的な取組事例などの情報を提供した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	「しまくとうば読本活用状況調査」の結果を踏まえ、学校において「しまくとうば読本」の効果的な利活用が促進されるように検討する必要がある。	③ 他地域等事例を参考とした改善	地域ごとの言葉の違いによる学校の課題を確認し、他地域での効果的な活用・授業事例を収集・共有することで課題解決を図る。「しまくとうば読本」を現場で円滑に活用し参考にしてもらえるよう支援する。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	児童生徒が、生まれ育った地域の風土や文化のよさを再認識できるよう、「しまくとうばの日」について、今後も情報共有や周知を図る必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	引き続き、9月18日のしまくとうばの日について小中学校への周知するとともに、「しまくとうば読本」の活用を促していく。